

会議議事摘録

会議名	2020年度第1回学校関係者評価委員会
開催日時	2020年7月24日(金曜日)10:00~12:15
場 所	本校406教室
出席者 (敬称略)	<p>①委員:赤塚敦子(看護関連業界関係者)、石川幹夫(卒業生)、伊藤由紀(高等学校関係者)、篠塚功(医療事務関連業界関係者)、西村拓也(くすり関連業界関係者)、藤井寿和(福祉関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、(計7名)</p> <p>②学校:橋本正樹(校長)、宮下明久(事務局長)、村山由美(医療秘書科学科長・医師事務技術専攻科長)、深澤由紀子(医療秘書科副学科長)、三宅かおり(医療マネジメント科学科長・診療情報管理専攻科長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、熊谷 崇(介護福祉科教員・教務委員長)、宮嶋貴与(鍼灸医療科学科長)、前田律子(看護科担当副校長・学科長)、伊東由美(看護科副学科長)(計10名)</p> <p>③事務局:松本晋圭、土屋瑠美子(計2名)</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計19名)</p>
欠席者	磯田眞美(保護者)、岩上由紀子(介護福祉科学科長)小田真理子(キャプションライター養成科学科長)
配付資料	<p>①事前送付:</p> <p>□資料1:2020年度学校関係者評価委員会名簿、□資料2:2019年度第3回委員会以降の主な経過報告 別添A:2020年度校務分掌、別添B:2020年度学事日程・オープンキャンパス日程、別添C:2020年度クラス担任一覧、別添D:2019年度進路決定状況/2019年度求人件数、別添E:2020年度教員研修計画・実績、別添F:オンライン授業について、別添G:2020年度前期授業アンケートの実施計画、□資料3:2019年度活動の自己評価報告書点検大項目、□資料4:2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み、□資料5:2020年度の重点目標と達成するための計画・方法</p> <p>②当日配付・閲覧資料</p> <p>2020年度学生生活ガイド(看護科以外、看護科)、2020年度講義要項(全学科)、2020 Challenge 就職活動ノート、2021年度入学案内書、2021年度募集要項(看護科以外、看護科)、2020年度医療事務分野・福祉分野・看護分野教育課程編成委員会名簿</p> <p>③当日回覧資料</p> <p>2019年度活動の自己点検・自己評価報告書(点検中項目)</p>
議題等	<p>1. 今年度委員及び新任者(委員、本校)の紹介</p> <p>事務局より今年度就任の新委員及び本校教員の異動について紹介があった。</p> <p>2. 校長挨拶</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大については予断を許さない状況が続いている。本校の教育活動としては、今年の3月以降、卒業式、入学式などの学校行事が中止となる中、急きょ準備をして、5月の連休明けから双方向のオンライン授業を一部で開始した。6月</p>

にはオンライン授業に加えて少人数クラスに分割した分散登校による対面型の授業を始め、7月から一部オンライン授業を並行しながら、感染防止対策及び安全性について専門の先生からお墨付きを得て、通常登校による授業を開始している。今回、オンライン授業のよい面も見えてきた。今後は、ハイブリッド型の授業運営が新たな課題として出てくることと思う。

ウィズコロナの状況下で医療機関、福祉施設、企業に就職していく学生には、新型コロナウイルスに対する感染防止の正しい知識を持って、それぞれの仕事の現場において活躍してほしいと願っている。

学校関係者評価委員会は年3回となるが、委員の皆様には学校のサポーターとしてのご意見をいただきたい、との挨拶が行われた。

3. 学校関係者評価委員会について（説明者：宮下事務局長）

事務局長より、学校関係者評価委員会の役割、制度的な位置付けについて説明が行われた後、委員長より、本委員会は①自己点検・自己評価の内容が適切かどうか、②今後の改善方策が適切かどうか、③学校の重点目標とそれを達成する方策が適切かどうか、④学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうかを評価し、学校が継続的な改善を進めていくための専門的な助言を行うものとの補足説明が行われた。

4. 2019年度第3回委員会について（説明者：事務局松本）

前回の会議はコロナの関係で書面で確認をいただく形となったが、その際に頂戴した質問のうち共有すべきと思われる内容について事務局より紹介し、担当者からそれぞれ回答が行われた。詳細は別紙のとおり。

5. 経過報告（説明者：宮下事務局長、熊谷教務委員長、事務局松本）

2019年度第3回委員会以降の主な経過について、資料2に基づき報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 2019年度活動の自己評価報告書（点検大項目）について

資料3に基づき、基準の大項目ごとに追加コメント、質問・意見をいただく形で進行了。委員会からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

7. 2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組みについて

資料4に基づき、各学科及び担当者から取り組み状況について報告し、確認、了承された。委員からの質問・意見等は別紙のとおり。

8. 2020年度の重点目標と達成するための計画・方法について

資料5に基づき橋本校長より補足説明があった後、確認、了承された。委員からの質問・意見等は別紙のとおり。

	<p>9. 意見交換など（省略）</p> <p>10. 次回日程、その他</p> <p>事務局より、次回は11月を予定している。改めて日程調整をさせていただきたいとの報告があり、確認、了承された。</p>
--	--

以上

2020 年度第 1 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 4. 2019 年度第 3 回委員会について

○事務局松本より、前回の委員会に書面で寄せられた質問、意見の中で共有すべきものについて紹介があり、各担当者からそれぞれ回答があった。

(Q) 研修の内容をどのように共有しているか。

(A) 研修で得たものについては、教職員全体会で発表してもらうほか、それぞれの専門分野の教員の中で共有している。

(Q) 外部の先生を「兼任講師」と呼んでいるが、高校教員の立場からは他の学校との兼任という理解をしてしまう。「業界講師」のほうが分かりやすいのではないか。

(A) 実際に業界から来ていただいている方が多い。行政的には兼任講師、非常勤講師という言葉が使われているが、広報的に使えるところは使っていきたい。

(Q) 医療秘書科では一部の科目において 2 年生が 1 年生の授業をサポートする取り組みをしているが、どのように実施しているか。また、習熟度別の授業のクラスの分け方はどのようにしているのか。

(A) 11 月の検定対策として、演習系の授業において上位級を取得している 2 年生がサブ講師として入る形をとっている。2 コマを 1 セットとして 2 回行い、1 回目の 1 コマ目は、シラバスに沿ってどう教えていくか、サブ講師の役割は何か、どのような質問が来るかを研究し、2 コマ目でそれに即して授業の中に入る。次の 1 セットは、復習・反省をして次の授業に入っていく形を繰り返している。

習熟度授業は、主要専門科目の「診療報酬請求事務」の中で 1 年次から実施している。分け方は、受験する級による。模擬試験、期末試験の成績により、講師のほうでクラスの切り分けをしているが、希望があれば個別に対応している。

(Q) コロナの対策でアルコール消毒薬、トイレのペーパータオル等を設置しているが、実際の授業も含めて、様々な場面で新型コロナウイルス対策の検討をお願いしたい。

(A) 根本的な対策として、マスクの着用、手洗い、換気はルールを決めて指導しているほか、面接対策、グループディスカッションなどではフェイスシールドを活用している。ハード面だけでなく、学生のメンタル面についても学生相談コーナーや保健室と連携をとって進めている。

(Q) 募集活動の一環として、本校では高校訪問の際に在校生データを報告しているが、他校では生徒の顔写真入りで就職先の報告書などを作っていた。同様に行うことは考えているか。

(A) 就職が内定した学生について、本人の了解を得て一部では実施している。

次第 5. 経過報告

○橋本校長、宮下事務局長、熊谷教務委員長、事務局松本より資料 2 に基づき、以下の報告が行われた。

1. 2020 年度の組織運営関連

・2020 年度校務分掌（別添 2-A 参照）（説明者：橋本校長）

①学生委員会所管の体育祭、学園祭は中止し、各学科でできる範囲でやることにしたが、体育イベントは中止となった。

②オンライン授業は教務委員会で担当した。

③企画室は外国人留学生の動向について調査を進めていく。

・2020年度学事日程・オープンキャンパス日程（別添2-B参照）（説明者：宮下事務局長）

①4月、5月は登校しての授業がなく、5月中旬から一部でオンライン授業の実施、6月に入り分散登校による対面型の授業を始め、7月から全員が登校するようになった。8月の夏休みも1週間となるなど、前期は予定がかなり変更になった。後期についても変更になることを考えて準備をしている。

②オープンキャンパスも3月から5月までは中止し、6月から定員制限を設け、感染対策を行って実施している。

2. 学生の状況関連（説明者：宮下事務局長）

(1)入学の状況（別添2-C参照）

(2)退学の状況（2019年度第3回委員会、修正版と同じ）（別添2-D参照）

(3)就職活動の状況

- ・内定率は全学科平均で98.9%となった。
- ・医療事務分野の求人件数は前年度より増えている。

3. 教務委員会関連（説明者：熊谷教務委員長）

(1)2020年度教員研修実施計画・実績（別添2-E参照）

- ・今年度は新型コロナの関係で研修自体の中止、教員のスケジュール調整の困難などにより、例年に比べて少なくなっている。
- ・教務委員会主催の研修は、6月に兼任講師による新型コロナに関する研修を実施した。動画でも配信し、兼任の先生にも公開した。

(2)オンライン授業に関する報告（別添2-F、当日追加資料参照）

- ・資料配信型を中心に、双方向オンライン型、動画配信オンデマンド型を組み合わせ実施した。
- ・実施に当たり、教育向けの手引き（約180ページ）と学生向けの手引き（約90ページ）を配信した。
- ・アンケート調査の結果、予想以上にネットやパソコンの使用環境が十分でなかったため、スマートフォンでの授業参加を想定した。
- ・途中で通信が途切れた学生には、オンライン授業を可能な限り録画し、後日動画配信している。
- ・通信環境が不十分な学生には、モバイルWi-Fiルーターを無償貸与した。
- ・オンライン授業の使用ツールは主にグーグルのサービスとZoomを利用している。

4. 授業アンケート関連（説明者：事務局松本）

(1)2020年度前期実施計画（別添2-G参照）

- ・今年度からWeb実施に変更する。
- ・新型コロナウイルスの関係で授業の進度が例年と異なるため、今回はプレ導入的な形として専任教員のみで、授業がある程度順調に進んでいるものを抽出して実施する。

5. 自己点検・自己評価関連

6. 職業実践専門課程関連

- ・今年度に看護科を申請する。
- ・2021年度にくすり・調剤事務分野の申請を予定している。

7. その他

- ・高等教育の修学支援新制度（無償化）申請状況の報告

○委員からの質問と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<ul style="list-style-type: none"> ・学事日程の中に実習に関する記載がないが、今年度は見送りになるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護科は7月から開始できる状況になった。介護は断られるケースもあるが、できる範囲でやっていきたい。医療事務分野は基本的には中止とし、その単位に充当するカリキュラムの変更について豊島区に相談している。 ・医療事務系学科は学生アンケートの結果、8割の学生が希望している。最終学年にとっては就職にも影響してくるので、現在、1週間程度の現場体験の可否について医療機関に打診している。

次第6. 2019年度活動の自己評価報告書（点検大項目）について（資料3参照）

○委員からの質問と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<ul style="list-style-type: none"> ・「教育目標、育成人材及びそれを構成する知識、技術、人間性等は毎年度初めに点検している」とあるが、点検内容はどのようなものか。 ・目標面接は、校長と先生方との間で行われるものか。 ・「社会人化のための学生指導に関して、兼任講師との連携を図ることが課題である」と書かれているが、具体的には何を指しているのか。 ・卒業生のネットワークの構築は、今の時代は個人情報関係もあり難しい。現状はどうなっているか。 ・就職先に対する卒業生の就業状況調査を実施していると思うが、1年後の離職率はどのような傾向にあるか。 ・就職後1～2年目の状況調査は学校として取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・大項目は包括的にまとめたもので、詳細は学科ごとに点検中項目に記載している。 ・直属の上司との間で、年度始めに各個人の目標の確認、年の半ばに中間面接、年度末に最終面接をしている。 ・挨拶やマナー、自ら学ぶ姿勢など、社会人教育についても兼任講師の方と一緒にやっていこうという意味である。兼任講師の方のほうが割と甘い感じがしている。 ・卒業生から希望があった学科で、校友会の活動として同窓会等を行っている。少しずつ動き始めたところである。 ・就業状況調査は定期的に行っていないので正確には把握できていない。連絡があった個々のケースの把握にとどまっている。 ・学事システムをオープンキャンパスから卒業後まで追っていける形にしていきたい。 ・看護科では、今までは河北医療財団（急性期の病院）

<p>組むべきものだと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生支援で履歴書の書き方、面接指導等々の記載があるが、面接指導はリアルで行っているのか。ドラッグストアも含めて、企業ではウェブ面接が進んでいる。リアルとは伝え方、感じ方が違うし、企業側はメリットも感じているので、授業や特別プログラムで組み込んでみてはどうか ・常勤と兼任講師との連携、保護者との連携、学生相談等でもオンラインを活用していくとよいと思う。 ・ホームページは、動きが激しく、求めている情報が見つけない。また、新型コロナに対する対応方針や取り組み状況等の情報発信も必要ではないか。 	<p>への就職が多かったが、近年は慢性期、在宅、リハビリ専門病院などを自分で選んでいるので、離職のタイミングは遅くなってきたと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度の学校関係者評価報告書でいただいた意見に基づき、各学科等で検討している。 ・キャリアサポートプログラムを通して、CSCや担任、外部講師にも依頼して面接指導をしている。実際に受けるところが決まったときに、先輩が過去に受けた面接の記録などを加味した個別の指導も行っている。ウェブ化についてはご意見を参考にさせていただきたい。 ・広報が募集広報一辺倒になっている面がある。見やすさも含めて、必要な情報の発信については改善の余地があると思っている。
---	---

次第7. 2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組みについて（資料4参照）

○委員からの質問と回答は次のとおり。

<ul style="list-style-type: none"> ・学校内の感染対策は万全でも、外から持ってこられることもある。感染リスクの高い場所に行かせないように、具体的に場所を挙げて指導したほうがよい。 ・窓口を設置して、家族がPCR検査を受けたり身近で感染者が出た場合等の情報を得る対策も必要ではないか。 ・オンライン授業の課題、学生の反応、活用方法等について考えを聞きたい。 ・オンライン授業は、1人も欠けることなく対応できたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策の再確認のほか、医療と福祉の現場に就職していく者として、個人でできる感染防止対策を徹底していきたい。 ・各クラスの担任経由ですぐ報告が上がってくる。情報を得たらすぐに出席を停止して、状況が分かるまでは学校に来させないことを徹底している。 ・ソフト面、ハード面の底上げが必要。1年生は全く顔合わせをしていないので、反応がつかみにくかった。今後もノウハウを積み上げていきたい。 ・途中で通信が途切れることはあったが、ほぼ実施できた。
---	--

<p>・オンラインに関しては、教師側の作り方、機能の使い方によって学生の参加意識が変わってくる。工夫をすることが重要だと感じている。</p>	<p>・オンライン授業を始めるに当たり、脱落者を出さないことを大前提とした。</p> <p>・医療マネジメント科では、2年生に限り週に1回オンライン授業の日を設けて、学生の登校する負担を減らしている。チャット機能を使って積極的な反応が見られたり、他人の目を気にすることがないため出席率もよくなるなど、学修成果も現れている。個人面談もZoomで行ったが、対等な感じではよかった。</p> <p>・医療秘書科では1年生の「ホスピタリティ」の授業でオンラインを続けている。40人クラスの中でグループワークができるメリットもあるので、対面との共存を今後の課題として考えていきたい。</p>
--	--

次第8. 2020年度の重点目標と達成するための計画・方法について（資料5参照）

○橋本校長より、今年度の重点目標と、その達成のための計画・方法について以下のとおり報告があった。

①TPCの育成と強化

・ウィズコロナ、アフターコロナの中で、従来の対面型とオンラインを活用したハイブリッドな教育の実現を考えていきたい。

②学び直し等の教育プログラムの開発

・学び直しの方を対象にした1年制の学科の新設など、来年度に医療事務系の学科の再編を考えている。ここでもオンラインの有効活用を重点目標としている。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

<p>・介護現場では、デイサービスに通いたくない人に対して電話で安否確認をすると算定ができるなど、オンラインでのサービスを提供する形が取り入れられている。学生時代にZoomに慣れ、非対面型のコミュニケーションができていたことが役立つことを伝えていただくと、オンライン授業が生きてくると思う。</p> <p>G-mailによる回答率が低かったという報告があったが、今はメールよりLINEやチャットなどで情報を収集することが多い。介護業界でも新しいアプリを使える人を望んでいる。業界のトレンドを察知して学生に伝えていくと、よりよい授業</p>	<p>・オンラインは就職面談、募集広報関係が先行し、その後に授業で開始した。オンラインの中でのコミュニケーションが新しい様式として生まれてくるかもしれないが、教育の基本は対面だと思う。ハイブリッドでうまく対応していきたい。</p>
---	---

<p>展開になると感じた。</p> <p>・オンラインの良さを伺って、今後も活用していくべきと思う反面、本校の場合は、患者さんや利用者と直接関わる力をいかにつけていくかが課題だと思う。</p> <p>・進路指導で大事な高校2年生の最後と3年生の始まりのところがコロナ禍によって欠けている。受験制度についても振り回されているので、高校現場は大変なことになっていると思う。募集対策にも影響すると思うので、必要な情報発信に留意されたい。</p>	<p>鍼灸医療科でも患者様の治療に当たってコミュニケーション能力が求められる。コロナ禍の中でも落とさないことが大事だと痛感している。</p>
---	--

以上